

Kanayamachi Rakuichi project

金屋町楽市 in さまのこ 芸術文化学部地域連携プロジェクト



開催概要

「金屋町楽市」は、高岡鋳物発祥の地であり江戸時代以来の古い町並みを残す金屋町全体をミュージアムに見立てて工芸の逸品を展示・販売する事業です。富山大学芸術文化学部が核となって企画・立案、高岡市や地元企業等の参画を得て2008年に第1回を実施しました。準備期間も十分にながらアルミ製の什器を新たに開発、作品に関しても今泉今右衛門氏をはじめとする当代の一流作家から出展を得て『美しさ』にこだわった展示を行いました。その結果、まちづくり関係者をはじめ来場者からはこれまでにない事業であるとの評価があり、地元からも継続を求める声が上がりました。

そこで2009年は、金屋町で従来から行われてきたまちづくりイベントである「さまのこアート in 金屋町」と合わせて住民と行政、産業界と大学が協働するプロジェクト「金屋町楽市 in さまのこ」として再始動することになりました。『工芸×生活×産業が同居するゾーンミュージアム』というコンセプトは継承しながら、我が国で工芸が花開いた桃山時代にもものづくりの根源を求め『momoyama 2009』を年度テーマに設定、文化的視点をより重視した企画を加えて事業の充実を図りました。

特徴的な内容としては、若手作家の発掘・育成を目的に35才以下の作家を対象にして「金屋町大賞」を設け、受賞者には東京で開催された東京インターナショナルギフト・ショーでの展示機会を提供しました。展示の印象を左右する什器については、初年度開発したアルミブロックの用途を拡大し、カフェや屋台の大型設備として展開しました。お茶会は趣向の異なる茶席を設け「大茶会」として開催する一方、「きもの通り」と称するイベントを併設し和服姿でお茶会や町並み散策が楽しめるようにしました。また、住民と参加者を繋ぐ手段としては「瓦版」を2日間で6回発行、加えてプレイベントとして町並み散策や工房見学、製作体験などを盛り込みました。

遠くは宮城からの出展者があり高岡の作家と交流する姿が見られるなど、目標が少し形になってきたことが感じられた第2回となりました。

主な開催内容

●シンポジウム

実施日：平成21年10月23日（金）午後7時～午後9時

会場：ウイング・ウイング高岡

テーマ：「林忠正にみる日本の工芸の未来Ⅱ」

基調講演：橋本 夕紀夫（インテリアデザイナー）

パネルディスカッション

橋本 夕紀夫（インテリアデザイナー）

坂井 直樹（コンセプター）

桐本 泰一（輪島キリモト・デザインプロデューサー）

伊東 順二（コーディネータ）

参加人数：約230人

シンポジウムはテーマを「林忠正にみる日本の工芸の未来Ⅱ」とし、昨年に続いて明治期に高岡のみならず日本の工芸や美術作品を欧州に紹介した美術商・林忠正をテーマに、工芸のあるべき姿、それにむけて職人や行政等が取り組むべき課題について考えました。

はじめに実行委員長である伊東順二が独自のコンセプトで展開してきた「茶美会」を事例に「用」と「美」の結びつきについて言及した趣旨説明があり、次に基調講演としてインテリアデザイナーの橋本夕紀夫氏の「デザイナーの役割は昔からある優れた技術や考え方を新しい観点で発見して、現代の中に活かしていく、あるいは未来に向けて発展させていくこと」との指摘が成されました。

これを受けて行われたパネルディスカッションでは、Be-1など数々のヒット商品を生み出してきた坂井直樹氏からデザインが世の中を大きく変え価値創造を行うといった趣旨の発言があり、輪島で漆器を制作、東京で積極的に販路開拓に務める桐本泰一氏からは、普段のくらしの中で当たり前のように使えるものを目指して行われている取り組みの紹介がありました。

最後に、話題は建設中の東京スカイツリーに及び、周辺が高岡と同じように職人の町であること、そのノウハウを活用して新たな商品開発が行われていること、伝統を現代に活用し地域再生を目指す事例が紹介されました。



基調講演講師

橋本 夕紀夫 氏
Yukio Hashimoto
インテリアデザイナー

● 楽市塾 隈研吾氏と高橋市長の対談

実施日 : 平成 21 年 10 月 24 日 (土) 午前 11 時～正午
会場 : 宋泉寺
テーマ : 「林忠正にみる日本の工芸の未来」
隈 研吾 (建築家)
高橋 正樹 (高岡市長)
伊東 順二 (コーディネーター)
参加人数: 約 80 人



パネラー

坂井 直樹 氏
Naoki Sakai
コンセプター



パネラー

桐本 泰一 氏
Taiichi Kirimoto
輪島キリモト
デザインプロデューサー



スピーカー

隈 研吾 氏
Kengo Kuma
建築家



コーディネーター

伊東 順二 氏
Junji Ito
金屋町楽市実行委員長
富山大学 芸術文化学部 教授



スピーカー

高橋 正樹 氏
Masaki Takahashi
高岡市長

Zone Museum

工芸 × 生活 × 産業が同居する空間の再生

● 楽市塾 金屋町楽市茶話会「隈研吾と建築を語る」

実施日 : 10月24日(土) 午後2時~午後3時

実施会場: KUMA Café

参加者 : 約40人(立ち見含める)

● 楽市塾 金屋町式和の指南所

実施日 : 10月25日(日) 午前11時~午後3時

実施会場: 宗泉寺

参加者 : 約50人

● 分科会:

○ 貴志雅樹 分科会

実施日 : 10月24日(土)

午後6時30分~午後8時

実施会場: 神妙寺

テーマ : 「伝統工芸と現代クラフト」

メインゲスト

大樋年雄(陶芸家)、中村信喬(人形師)、柳原正樹(水墨美術館副館長・当時)、貴志雅樹(富山大学芸術文化学部教授)

参加者 : 約60人

○ 横山天心 分科会

実施会場: 北陸予防医学協会高岡総合健診センター

テーマ : 「歴史的街並みの継承と革新」

メインゲスト

浦淳(建築家)、緒方慎一郎(クリエイティブディレクター)、吉村英孝(建築家)、武山良三(富山大学芸術文化学部教授)、横山天心(富山大学芸術文化学部助教・当時)

参加者 : 約60人

● 作家交流会

実施日 : 10月24日(土)

午後8時20分~午後10時

実施会場: 宗泉寺

参加者 : 約50人



アルミブロックが内装に使われた KUMA Café が楽市塾の会場になった



2会場で開催された分科会では、具体的な課題が示され議論が行われ



作家交流会では分科会パネラーや招待作家、地元住民が懇親を深めた



● 金屋町楽市ゾーンミュージアム

実施日 : 10月24日(土)、25日(日)

午前10時～午後5時

実施会場 : メイン会場: 高岡市金屋町石畳通り周辺

通行量調査: 2日間で約22,000人

作品展示・販売

出展者 : 125名

作品総数 : 約2,000点

売り上げ : 1,244,805円

● コンペティション「金屋町大賞」

対象者 : 18歳～35歳の作家51人

審査員 : 伊東順二、貴志雅樹、武山良三、
相川繁隆、高川昭良

審査結果 : 金屋町大賞 森つくし(陶芸)
審査員特別賞 植埜貴子(漆芸)
審査員特別賞 梶原朋子(ガラス)

● 金屋町大茶会

実施日 : 10月24日(土)、25日(日)

午前10時～午後4時30分

席名(主催)・場所

- ・楽庵(藪内流)・金屋町三角公園
- ・裏野(シンプリシティ)・小泉家
- ・さまのこ席(金屋町婦人部有志)・畠家
- ・KUMA Café(隈研吾監修。芸文学生運営のカフェ)・藤田家
- ・一客一亭・金屋町地内6箇所

来場者 : 約930人(一客一亭を除く)

● 金屋町きもの通り

実施日 : 10月24日(土)、25日(日)

午前10時～午後4時

実施会場 : 金屋町石畳通り

参加者 : 和装モデル60人、貸衣装利用者約10人、
着物姿の来場者多数在り



金屋町大賞の表彰式で隈研吾氏より祝福される大賞受賞者・森つくし氏



シンプリシティの企画した茶席では蚊帳が空間として活用された



和服姿の来場者が千本格子と石畳の町並みに彩りを与えた

Zone Museum

工芸 × 生活 × 産業が同居する空間の再生



● 食のイベント

実施日 : 10月24日(土)、25日(日)

午前10時～午後4時30分

実施会場: フジチュウ駐車場、鋳物資料館第三展示室

出店者

- ・金屋町自治会婦人部(ぜんざい、コーヒーの販売)
- ・正栄産業(焼き鳥、焼きそば、弁当、飲み物)
- ・自立サポートJam、万葉福祉作業所(クッキー、こけ玉)
- ・高岡商業高校生徒模擬株式会社「りゅうりゅう」(飴、ヨーグルト)
- ・トナミ運輸(富山県特産品)
- ・その他(利長くん焼き、たこ焼き、おでん)



KUMA Caféでは学生が認定土産物のマドレーヌをアレンジして提供した

● 土産物認定

実施日 : 10月24日(土)、25日(日)

内容 : 金屋町等の10店舗の商品を認定



食のイベント会場では学生バンドの演奏も加わり賑わいが創出された

● 瓦版の発行:

実施日 : 10月24日(土)、25日(日)

発行回数: 6回(各300部)

● さまのご寄席

実施日 : 10月23日(金) 午後7時～午後8時30分

会場 : 高岡市ふれあい福祉センター(博労本町)

出演者 : 春風亭鹿の子(落語)、神田阿久鯉(講談)

参加者 : 約100人



まちめぐりツアーでは雰囲気溢れる工房の中で鋳物製作を体験した

● 楽市塾 金屋町まちめぐりツアー

実施日 : 10月17日(土) 午前9時～午後4時

○ものづくり体験(午前)

会場 : 金屋町の鋳物関連事業所

参加者 : 18人

○路地裏寺社散策(午後)

会場 : 金屋町の路地裏通り、寺社

参加者 : 20人



金屋町楽市 in さまのこ MOMOYAMA2009

【開催期間】平成 21 年 10 月 24 日・25 日

【来場者数】22,000 人

【主 催】金屋町楽市実行委員会

[委員長・プロデューサー] 富山大学芸術文化学部
教授 伊東順二

[副委員長] 富山大学芸術文化学部 教授 貴志雅樹

[副委員長] 富山大学芸術文化学部 教授 武山良三

[委員]

富山大学芸術文化学部 助教(当時) 横山天心

隈研吾都市建築設計事務所 代表: 隈研吾

金屋町自治会 代表: 加藤昌宏 / 般若陽子 / 新保智子

富山ガラス工房 館長: 野田雄一

金沢卯辰山工芸工房 館長補佐: 相川繁隆

茶道家 藪内流: 小久保瑛子

高岡市観光協会 事務局長: 竹下直之

高岡市商業観光課 課長: 萩下昌弘

高岡市デザイン・工芸センター 所長: 高川昭良

[学生委員]

富山大学芸術文化学部: 渡部智也 / 平澤悠花 / 柳田
和佳奈 / 根井遙 / 宇佐美莉恵

【事務局】金屋町楽市実行委員会事務局(高岡市観光協会)

【後 援】経済産業省中部経済産業局 / 富山県 / 株式会社北日
本新聞社 / 株式会社チューリップテレビ

【協 賛】三協立山アルミ株式会社 / トナミ運輸株式会社 / 三芝
硝材株式会社 / アクタス富山店 / 和楽庵 / 学校法人
白井学園 / 藤岡敦子礼法きもの学院 / 金屋町公民館

【出 展 者】招待作家: 今泉今右衛門 / 大樋年雄 / 緒方慎一郎 /
岡野博一 / 川瀬隆一郎 / 桐本泰一 / 城谷耕生 / 中村
信喬 / 橋本夕紀夫 / 吉岡徳仁 / 大澤光民 / 大角勲 /
黒田昌吾 / 鳥田宗吾 / 高瀬竜一 / 弓場麻衣 / 林 暁 /
釋永陽 / 野田雄一 / 相川繁隆

公募作家: 浅井洋子 / 網直紀 / 魚屋とも子 / 解良明
美 / 加藤重美 / 加藤慎輔 / 小久保光将 / 小林綾花 /
沢越孝子 / 志賀英二 / 柴田祐子 / 清水康志 / 鈴木環
/ 関崎未仁 / 岳中爽果 / たこあつこ / 田澤祐介 / 玉邑

みち子 / 中村吉典 / 成瀬好徳 / 蓮野典子 / 花嶋伊都
子 / 林康 / 般若泰樹 / 古井友一 / 堀江満 / 前田秀子
/ まつださゆり / 松本圭嗣 / 松本宜子 / 村田繭衣 / 森
和彦 / 山内靖浩 / 山本太一 / 山本瑞生 / 吉田満利子
/ 鈴木努 / 小路口力恵

金沢卯辰山工芸工房: 相川繁隆(作品監修) / 青木
有理子 / 兼古麻衣 / 木瀬浩詞 / 切中優希子 / 金奇兌
/ 小曾川瑠那 / 外間貴子 / 靄林舞美 / 藤掛幸智 / 松
田明德 / 森つくし / 山口京 / 植埜貴子

富山ガラス工房: 野田雄一(作品監修) / 泉秀明 /
池田充章 / 岩瀬明子 / 大山隆 / 小島有香子 / 小幡祐
嗣 / 小柳津周子 / 加護園 / 梶原朋子 / 金津沙矢香 /
岸本耕平 / 佐々木俊仁 / 佐々木伸佳 / 竹本亜紀 / 時
澤真美 / 豊岡伸安 / 名田谷隆平 / 西山雪 / 野口知恵
子 / 森康一郎 / 和田修次郎

高岡市デザイン・工芸センター: 高川昭良(作品監修)
/ 内島正雄 / 折井宏司 / 小杉かん子 / 沢田健勝 / 島
田数男 / 下尾和彦・さおり / 新宮康幸 / 多喜かおる /
中山裕晃 / 畑勝日佐 / 平戸香菜 / 源謙次 / 武蔵川義
則 / 鷲塚貴紀 / (株) 能作 / (株) 高田製作所 / (株)
二上 / (株) ナガエ / 高岡市デザイン・工芸センター
芸術文化学部教員: 小川太郎 / 小堀孝之 / 小松研治
/ 清水克朗 / 高橋誠一 / 武山良三 / 内藤裕孝 / 林暁
/ 丸谷芳正 / 渡邊雅志